

●●暮らしたの広場●●

がん 克服へ

■乳がん編

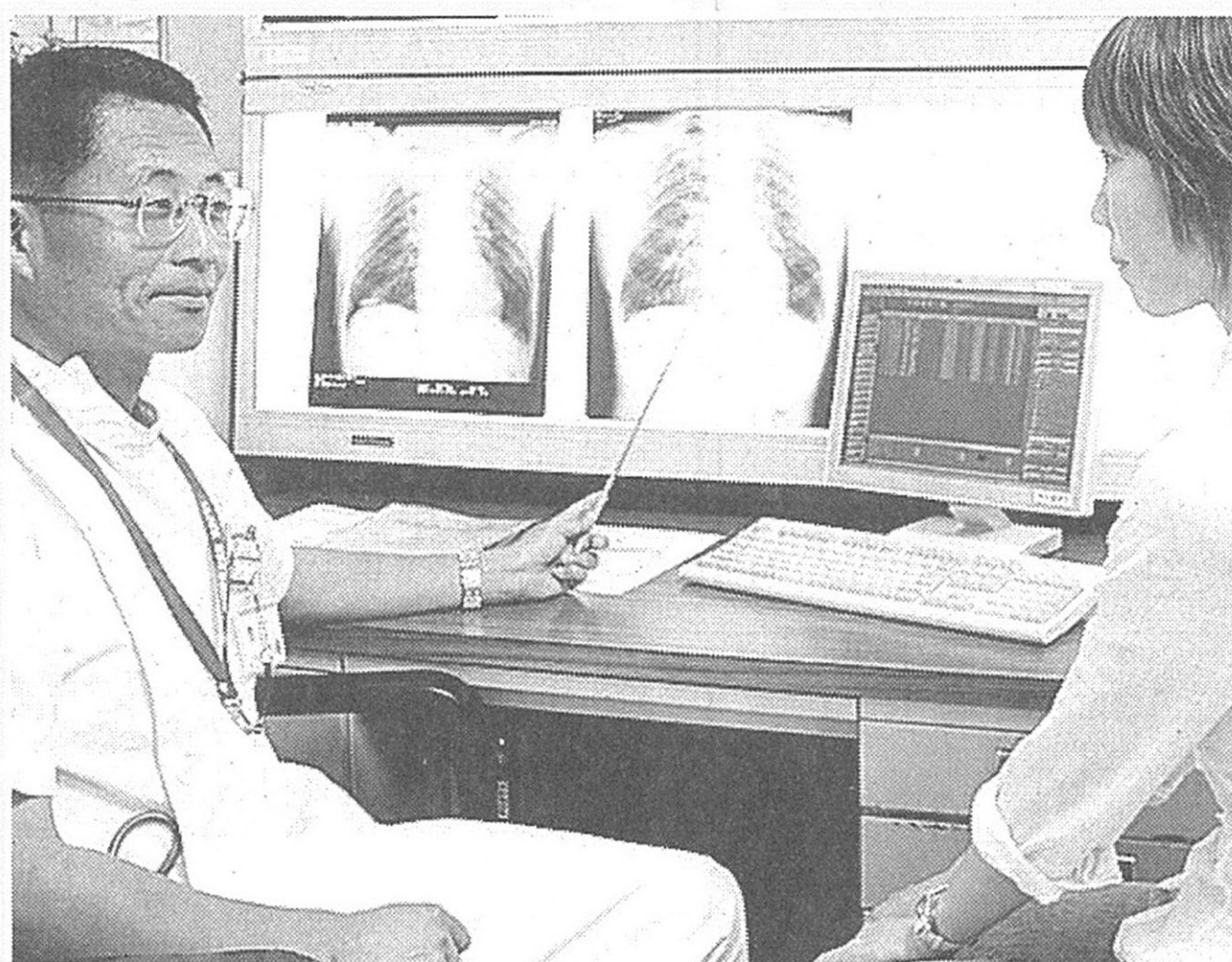
【1】
工藤 明敏

女優の田中好子さんが4月に乳がんで亡くなられました。彼女は1970年代に一世を風靡した人気アイドルグループ「キャンディーズ」のメンバーで「スーちゃん」の愛称で親しまれていました。享年55歳でした。

キャンディーズと同じ時期に青春を駆け抜けた私にとって、スーちゃんの死は大きなショックでした。私が大学に入学した昭和50(1975)年に発売された「年下の男

スーちゃんは私の青春

16人に1人がかかる



診察する工藤明敏医師

の子」が大ヒットし、バラエティもこなすキャンディーズは一躍スターとなりました。「自分はスーちゃん派、ラズは一躍スターとなりまし

得した後も庶民的な明るさで、私もファンの一人でした。しかし、「普通の女の子に戻りたい！」と昭和53年、惜しまれながら解散しました。スーちゃんは30代後半に乳がんを発症し、左乳がんの手術を受けられました。乳がんは小康状態で女優業も続けていきましたが、新聞記事によると、今年2月、肺や肝臓にがんが転移していることが分かったそうです。発病から19年という長い闘病でした。

このように、乳がんは他のがんに比べて罹病期間が長いことが特徴です。日本では毎年4万人以上の女性が乳がん

で治療を受けています。これは女性の生涯を通してみると、16人に1人が乳がんにかかる計算となります。つまり、中学校の同級生16人が集まると、一生のうちで誰かが乳がんにかかるわけです。

乳がんは食事をはじめとする欧米化された生活習慣が関

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

第2、4火曜日掲載